

# あいち環報



2024/1/1

会報 第158号

一般社団法人 愛知県環境測定分析協会



## 「残留塩素」

第6回 写真コンテスト 「測定・分析」部門  
金賞作品

水野 由教 氏 (株式会社環境公害センター)

### 目次

年頭のご挨拶	2	「精度管理研修会②(中堅実務コース)」受講報告	5
委員会活動報告	3	「施設見学会」開催報告	6
大規模地震による災害を想定した河川水の環境調査の訓練を実施しました	4	令和5年度環境計量士等研修会受講報告	8
		事務局からのお知らせ	8

## 四季折々

コロナが5類へ移行され少しずつ繁華街等も活気を取り戻しつつあった2023年はスポーツで盛り上がった一年だった。野球 WBC の優勝、男子バレーはネーションズリーグ初のメダル獲得、男子バスケットはパリ五輪出場権獲得、プロ野球日本シリーズの関西ダービー、その中で個人的にはラグビーワールドカップに注目していた。スポーツ史上最大の番狂わせと言われた前々回イングランド大会の南アフリカ撃破、前回日本大会でのベスト8進出と順調に強化が進んでいる日本代表がどこまでいけるのか楽しみであった。前回の日本大会は幸運なことに豊田スタジアムの3試合を全て観戦することが出来た。日本でのラグビー観戦と言えば主に大学ラグビーが中心で特に早稲田大学、明治大学、慶應義塾大学、同志社大学の試合には古くからのファ

ンが駆けつける。しかしワールドカップの雰囲気は全く異なるものであった。会場の最寄り駅では試合開始前からお酒を飲み、各国サポーターが国歌を歌いながら会場を目指すのである。更に会場についてからもお酒を浴びるように飲み試合後には勝敗関係なくお互いの健闘を称え、又、お酒を飲むのである。どのスポーツ観戦よりもお酒を飲むことがラグビー観戦であると実感したものである。イングランド大会では会場付近のビールが無くなり不評だったが、今回フランス大会は日本のビール会社がスポンサーとなり世界のサポーターを満足させた。日本代表は満足のいく結果を得ることは出来なかったが世界に力を見せつけた日本のビールを2024年はスポーツ観戦しながらたくさん飲みに行きたいものである。 文責：日野 栄一

\*\*\*\*\*

## 年頭のご挨拶

\*\*\*\*\*

一般社団法人

愛知県環境測定分析協会  
会長 大野 哲



新年あけましておめでとうございます。日頃は愛環協の活動にご支援とご協力を賜り誠にありがとうございます。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行し、ようやく従来の日常生活と活気が戻ってまいりました。

愛環協では昨年、従来の5ブロック体制から尾張第1ブロック、尾張第2ブロック、尾張第3ブロック、三河第1ブロックの4ブロックに再編し、新しい体制でのブロック会議を昨年9月に再開しました。4年振りの開催となりましたが、各ブロックでは活発な意見交換が行なわれ、久しぶりに懇親を深めることが出来ました。

また教育研修事業におきましては、このコロナ禍の4年間で培ったオンライン研修の実績とノウハウがあります。集合研修とオンライン研修のメリットを使い分けながらより効果的な研修運営を実施したいと思います。

災害対応につきましては、愛知県、豊橋市、豊田市、岡崎市、一宮市と災害協力の協定を締結しています。昨年の11月2日には、各自治体の河川における水質調査を想定した8回目となる現地での試料採取訓練を実施しました。

災害発生後には、大気中に拡散するアスベストを含んだ粉塵をはじめとして、様々な災害由来による河川や土壌への汚染が想定されます。各自治体のご担当者の方と連携して様々な訓練を積み重ね、環境計量証明事業者としての使命を果たせるよう努力してまいりたいと思います。

愛環協では、大阪府、神奈川県、埼玉県、福島県及び堺市、横浜市の環境計量証明事業者の団体と災害時の相互応援協定を締結し、毎年情報交換を行なっています。広域災害発生時に備えて業界とのさらなる連携を図ってまいります。

また近年は、PCB、アスベストだけでなくPFAS（有機フッ素化合物）問題が発生しています。愛環協では、人に良好な環境を保全する為に公害を中心とした様々な環境問題の解決に向けて測定分析を通じて貢献してまいります。

今年も会員の皆様、並びに自治体や各関係機関のご協力を賜り、役員・各委員会・事務局一同、邁進したいと思っておりますのでどうぞよろしくお祈り申し上げます。

令和 6 年 元旦

## 新春を迎えて

愛知県知事  
大村 秀章



あけましておめでとうございます。

新たな年が、県民の皆様にとりまして素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行し、アフターコロナへの動きが加速する中、安心な日常生活を取り戻し、社会経済活動を回すための取組をオール愛知一丸となって進めてまいりました。

そうした中、昨年は、新たに「もののけの里」が開園した「ジブリパーク」を始め、国内最大のスタートアップ支援拠点「STATION Ai」や「愛知国際アリーナ」の整備を着実に推進するとともに、2026年の愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会に向けた準備をしっかりと進め、愛知を更なる「飛躍」へと導く1年とすることができました。

また、国に先駆けて取り組んだ「少子化対策パッケージ」や、本県独自の「休み方改革プロジェクト」など、時代の流れを見極めながら、愛知が「ファースト・ペンギン」となり、様々な取組に果敢にチャレンジした1年でもありました。

世界は、グローバル化やデジタル化の加速度的な進展、SDGs 実現に向けた潮流など、大きく変化をしています。こうした変化に的確に対応し、将来にわたり、愛知が成長を続けていくためには、何より、愛知を支える「人づくり」が重要となります。

今年も、日本の未来を形づくるビッグプロジェクトを着実に進めるとともに、新時代を担う人材の育成・発掘に力を注ぎ、「日本一元気なあいち」の実現を目指してまいります。

今年3月には、ジブリパーク最大のエリアである「魔女の谷」が開園し、フルオープンを迎えます。また、10月には、「STATION Ai」がいよいよ開業します。世界中から、最先端の技術・サービス、人材を愛知に呼び込み、新たなイノベーションを次々と創出することで、更に人材が育ち集まってくる、そうした人材の好循環を生みだし、更なる愛知の成長につなげてまいります。

もちろん、こうした取組とあわせ、社会インフラ整備や農林水産業の振興、教育、女性の活躍、医療・福祉、感染症対策、環境、雇用、多文化共生、防災・交通安全、東三河地域の振興など、県民の皆様のご生活と社会福祉の向上にも力を注いでまいります。

引き続き、県民の皆様すべてが豊かさを実感できる「日本一住みやすい愛知」、すべての人が輝き、未来へ輝く「進化する愛知」の実現を目指し、全力で取り組んでまいりますので、一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

2024 年元旦

\*\*\*\*\*

## 委員会活動報告

\*\*\*\*\*

### ◆ 総務委員会

第 4 回の総務委員会を 1 2 月 1 日に開催し、次年度向けの「環境に関する喚起標語」の募集要領について検討しました。

次年度の標語テーマは「環境測定分析技術の向上」です。環境計量証明事業に携わる私達にとって測定分析技術の向上は永遠のテーマであり、日々行っている精度管理や教育研修など、「環境測定分析技術の向上」を促すような喚起標語をお待ちしております。入賞者には賞状と副賞が贈られ、特選作品は次年度の協会公式ポスターに採用させていただきます。応募要領をご確認の上、1 月 26 日までにご応募ください。結果は会報誌第 1 5 9 号で発表いたします。

また、3 月には「景況調査」を予定しております。お手数ですが、アンケートにご協力ください。

総務委員長 林 辰哉

### ◆ 企画・広報委員会

昨年の 10 月 13 日に施設見学会及び懇親会を開催しました。会員 25 名の方々にご参加いただき盛況のうちに閉会することができました。見学会の様様につきましては、本誌に掲載しておりますので、ご一読してください。

10 月 20 日に会報 157 号を発刊しました。そして、引き続き会報 158 号（本誌）の編集委員会を開催し、編集作業を進めました。

今年は 2 月に令和 5 年度第 4 回目の委員会を開催いたします。令和 6 年度社員総会特別講演及び環境月間講演会の講師候補を選定、また、会報 159 号（4 月発刊）の編集・スケジュール等を確定する予定です。

協会の行事、広報活動に於いては、会員皆様のご協力が必要となります。本年も積極的なご参加とご支援を宜しくお願い申し上げます。

企画・広報委員長 角 信彦

### ◆ 教育研修委員会

令和 5 年 11 月 17 日にオンライン形式にて受講者 41 名を集め環境計量士等研修会を開催しました。①「解体等工事の石綿飛散防止対策に係る大気汚染防止法の規制について」では愛知県環境局環境政策部水大気環境課 課長補佐 飯田豊司様からご講演いただきました。続いて②「有害な廃棄物を資源に変える新しい窒素循環システムに挑む」では国立研究開発法人産業技術総合研究所 ナノ材料研究部門 ナノ粒子機能設計研究グループ主任研究員 南公隆様から、③「JIS K 0102 の規格体系の見直しについて（第 2 回）－第 2 部及び第 3 部－」では株式会社環境科学研究所 品質保証部技術支援室 室長 牧原大様から、賛助会員 ビーエルテック株式会社様からは④「これまでの流れ分析の JIS 化と告示収録の経緯～流れ分析を計量証明事業で使用するためのアドバイス～」及び⑤「有害物質（カドミウム）を使用しない連続流れ分析法による硝酸及び全窒素分析手法の開発」について学びました。

令和 6 年 1 月 30 日には SOP 研修会を予定しています。多数のご参加をお待ちしております。

本年も研修会の充実を図り、多くの方に参加いただけるよう努め、会員の皆様のレベルアップのお役に立ちたいと考えております。

教育研修委員長 濱地 清市

### ◆ 技術委員会（水質、大気、騒音）

☆水質・土壌ワーキンググループ

令和 5 年度第 1 回共同実験（模擬排水中のひ素、セレン）の結果報告会を 1 2 月 1 1 日に開催しました。ご参加いただきありがとうございました。今後の運営の参考にさせていただきたいので、アンケートにご協力いただくと幸いです。

☆大気・臭気ワーキンググループ

令和 6 年 1 月 26 日（金）に勉強会を開催します。今回は株式会社テスト様に登壇していただきます。計測機器を会場に持ち込んでの実演を行いますので、是非ご参加ください。

☆騒音・振動ワーキンググループ

今年度は 2 月上旬に勉強会を開催します。詳細はメールで送付する案内をご参照ください。こちらも現在参加の募集しております。

技術委員長 伊藤 諭志

### ◆ 災害緊急時対応委員会

災害緊急時対応委員会では 1 1 月 2 日に「大規模地震による災害を想定した河川水質調査の訓練」、1 1 月 1 5 日、1 6 日に愛知県環境局資源循環推進課主催の「令和 5 年度災害廃棄物処理図上演習」への参加、そして、1 1 月 2 1 日には大阪環境測定分析事業者協会（大環協）様主催の環境問題特別講演会において災害協定に関する愛環協の取組について講演をし、1 1 月は委員会行事の多い月となりました。

「大規模地震による災害を想定した河川水質調査の訓練」は、当協会と協定を締結している愛知県、豊橋市、豊田市、岡崎市、一宮市の 5 自治体での同日開催という形で進めました。今年度は大規模地震により有害物質の流出が懸念される状況を想定して、河川水質調査を行いました。訓練は協定締結自治体、災害協力認定会員様のご協力を得て無事に訓練を進めることが出来ました。この場をお借りしてお礼を申し上げます。

また、「令和 5 年度災害廃棄物処理図上演習」では、災害廃棄物処理に携わる市町村の担当者が参加し、仮定の災害を基に災害廃棄物処理と迅速かつ適正に処理するための対応力や自治体間の連携強化を図るものでした。愛環協は災害時における協力等の協定を結ぶ団体として災害廃棄物処理での環境に関する相談役の立場で参加し、演習中は災害廃棄物置場の環境調査等に関する相談に対応いたしました。大環協様主催の環境問題特別講演会では災害協定に関する愛環協の取組を知っていただくとともに災害時相互支援協定の締結団体で最も距離の近い県単同士で今後につながる意見交換を行うことができました。

災害緊急時対応委員会では、いつ起こるかかわからない災害に対して少しでも迅速に確実に対応できるよう引き続き取り組んで参りますので、皆様のご協力をお願いいたします。

災害緊急時対応委員長 林 昌史

## 大規模地震による災害を想定した河川水の環境調査の訓練を実施しました

災害緊急時対応委員長  
林 昌史

\*\*\*\*\*

令和 5 年 1 月 2 日に愛知県環境局、豊橋市環境部、豊田市環境部、岡崎市環境部、一宮市環境部と当協会による災害時における環境調査訓練を実施いたしました。本訓練は、愛知県と当協会で開催した平成 28 年のアスベスト大気環境調査訓練から数えて 8 回目、中核市が参加しての参加訓練としては 6 回目(表 1)となりました。

表 1 これまでの訓練実績

実施年度	訓練内容
平成 28 年	アスベスト大気環境調査
平成 29 年	空間放射線量調査
平成 30 年	有害大気汚染物質 (ベンゼン、トルエン等)
令和 元年	アスベスト大気環境調査
令和 2 年	河川水環境(重金属類、ダイオキシン類等)
令和 3 年	河川水環境(重金属・農薬等の健康項目)
令和 4 年	アスベスト大気環境調査
令和 5 年	河川水環境(重金属・農薬等)

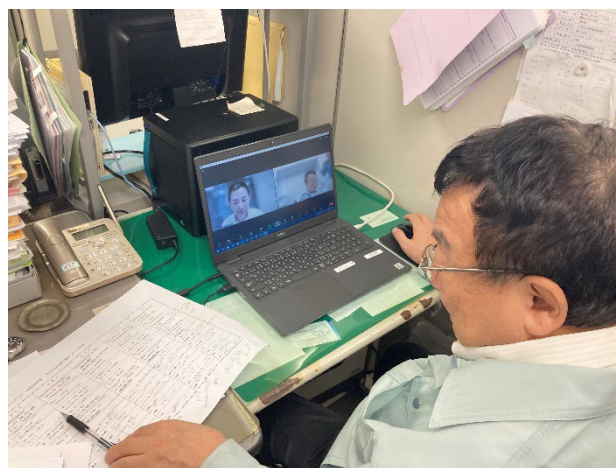
本訓練は、「災害時における化学物質等の調査に関する協定」に基づくもので、訓練の内容は、阪神・淡路大震災や東日本大震災のような大規模地震時に多くの建物が倒壊した事例から、大規模地震により県内広域で複数の事業所から有害物質(重金属や農薬など)が河川に流出し、水質汚濁が懸念される状況を想定したものです。なお、災害時における水質汚濁としては大規模地震に起因するものだけでなく、2019年(令和元年)8月の九州北部の豪雨災害で発生した油流出、同じく2019年(令和元年)10月の台風19号による河川の氾濫によるシアン化ナトリウム流出などの事案は皆様の記憶に新しいことと思います。

今回の訓練の実施場所は、愛知県では日光川の日光大橋、豊橋市では柳生川の下立合(しもたちあい)橋、岡崎市では六斗目川の六斗目(ろくとめ)橋、豊田市では逢妻女川の御乗替(おのりかえ)橋、一宮市では日光川の板倉橋の計5か所で実施しました。訓練の内容は、河川水中の重金属類や農薬類とし、地域の实情にあわせて自治体ごとに調査対象項目の選定が行われました。また、当協会から訓練に参加する会員の選定は、災害協力認定会員(45会員)への事前アンケート結果から、訓練未経験やこれまでの参加回数の少ない会員であることのほか訓練内容に対応する保有機材や移動距離等を勘案し5会員を選定させていただきました。

また、訓練を実施する5会員以外にも自治体との実施に向けた協議から現地調査、結果報告までを見学するオブザーバー参加も受け付け、これにも5会員の参加を頂きました。訓練実施会員とオブザーバー参加会員全10会員のうち4会員は今回が初の参加となるとともに、過去に参加を頂いた会員でも初めて参加する職員の方も見え、訓練により実地体験を増やすことができたのではないかと思います。

訓練当日は午前9時に訓練を開始し大野会長の発令により当協会事務局内に「災害対策室」が設置され、大野会長と災害対策室とのオンライン会議システムの立ち上げを行うとともに全会員に向けて災害対策室設置を周知しました。

その後、5自治体それぞれから協会事務局に調査要請の連絡が入ると災害緊急時対応委員にも要請が伝えられ、訓練を実施する会員の選定(事前に選定済み)と調査を実施する旨の連絡を行いました。



オンラインでの災害対策室の設置の様子

その後、訓練参加会員とともに災害緊急時対応委員も担当する調査地点に向向き、橋梁上部または河道内に立ち入って河川水の採取やバックテスト等の簡易検査を行いました。

調査の終了後は、自社にもどり調査結果(模擬の調査結果)をとりまとめて電子メールで各自治体と当協会事務局に送信するとともに電話による調査結果の連絡を行いました。それを受け、当協会事務局から5自治体へそれぞれの要請に基づく調査の完了報告を行い、訓練は終了しました。

本訓練の実施は今回で8回を数えますが、平成28年度から令和元年度までにおける自治体との訓練実施方法等の打合せは、細部にわたり協会事務局および災害緊急時対応委員が主となって実施し、その内容を訓練参加会員に周知するという方法で訓練を進めてきました。一方、令和2年度以降は、訓練実施方法の詳細は訓練参加会員と自治体が直接メールや電話等で打合せを行うことで進めていただきました。その間は自治体と訓練参加会員とのやり取りを災害緊急時対応委員および事務局でも共有し、必要に応じて協会としての対応を行いました。実際の災害発生時の現地調査実施に向けた打合せは、自治体と実施会員の間で連絡・調整を行うこととなるため、実際に近い形での進行為

できたのではないかと考えております。また、調査対象は河川水質で統一していますが、水質汚濁のシナリオ、調査対象項目については自治体ごとに設定された点も訓練の進行が実際に近い形となった点でも意義のある訓練となったのではないかと考えております。特に今回の愛知県の日光大橋の調査では、県環境調査センターで災害等緊急時において多種類の化学物質を迅速に測定する（スクリーニング分析）手法の一つであるGC/MS自動同定定量システム（AIQS）によって流出が確認された物質について、当協会が当該試料を受け取り定量分析を行うとともに現況把握の水質調査を実施するというシナリオで進め、災害時対応の自治体の調査機関連携の確認を行うことができました。

また、訓練当日には愛知県の日光大橋では中日新聞、岡崎市の六斗目橋では東海愛知新聞の2社の報道機関の取材がありました。大規模地震だけでなく毎年のように水害や土砂災害が発生していることから県民や市民の関心が高く、本協定の社会的意義と計量証明事業者としての使命を強く実感しました。

本訓練の計画と実施にあたりましては、愛知県環境局環境活動推進課様、豊橋市環境部環境保全課様、豊田市環境部環境保全課様、岡崎市環境部環境保全課様、一宮市環境部環境保全課様の全面的なご協力を頂いたことに深く感謝を申し上げます。

災害緊急時対応委員会では、今回の訓練で得られた知見を今後に生かすとともに、災害協力会員の結束を固め、有事に備えたいと思います。会員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



\*\*\*\*\*

## 精度管理研修会② 中堅実務コース受講報告

2023.9.28 から 29 開催  
株式会社愛研  
遠山 侑佳

\*\*\*\*\*

9月28日から29日に開催されました「精度管理研修会②【中堅実務コース】」にリモートで参加させていただきました。

環境測定業務に関わる分析者として分析結果を正しく取り扱うためには、統計学や精度管理について十分な知識が必要だと感じていました。そのため今回の研修会は、統計学の理解を深め、精度管理に必要な知識をつけるのに良い機会であると思い受講しました。

1日目は「環境法令について」「サンプリング及び環境分析における精度管理」「不確かさの検出」について講義がありました。

「環境法令について」では、法体系や法令改正の流れと環境法令の動向について学びました。該当する法令の把握と最新の法令を入手する重要性を感じました。

「サンプリング及び環境分析における精度管理」では水、大気、土壌をサンプリングする際の注意点や採取方法について学びました。何のためにサンプリングをするのかしつかり目的を把握したうえでサンプリング計画を立てる必要があることを再確認しました。

「不確かさの検出」では、不確かさの基礎から始まりGUMが示す不確かさ評価の手順について学びました。不確かさを評価することで工程のどこに要因があるのか把握する方法を学びました。

2日目は「機器分析の精度管理」「数値の扱い方、下限、妥当性及び基本統計量」「相関分析・回帰分析」について講義がありました。

「機器分析の精度管理」では、標準物質の取り扱い方、検量線の作成、機器の取り扱いについて学びました。精度管理では機械ごとのメンテナンスポイントについて説明を受けました。メンテナンスを適切に行い、機器の管理に努めたいと思います。

「数値の扱い方、下限、妥当性及び基本統計量」では、数値の丸め方や基本統計量について学び、エクセルを用いて演習を行いました。妥当性ガイドランをもとに演習を行い関数の扱い方を学びました。

「相関分析・回帰分析」では、飲み水の量とウズラのヒナの体重など例に挙げて回帰分析を行い、検定の方法を学びました。講義の中で演習を行った後、自分で課題問題を解くことで理解を深めることができました。

今回の研修を通じて法令、サンプリングの方法、機械のメンテナンス、分析方法、得られたデータの統計解析まで学ぶことができました。学んだことを実務に活かして技術の向上と精度管理の維持に努めていきたいと思っています。

\*\*\*\*\*

## 「施設見学会」開催報告

2023. 10. 13 開催  
企画・広報委員会  
小西 成実

\*\*\*\*\*

令和 5 年 10 月 13 日、企画・広報委員会では、恒例の「施設見学会」を開催しました。

今回の訪問先は、「半田赤レンガ建物」（愛知県半田市榎本町）と「中埜酒造株式会社 國盛 酒の文化館」（愛知県半田市東本町）の二箇所です。参加者は、入社 3 年目までの若い世代を中心とした会員 12 社 25 名。半田赤レンガ建物の最寄り駅の一つである名鉄河和線住吉町駅に現地集合し、簡単な自己紹介を経た後、徒歩で見学先を巡りました。

半田赤レンガ建物は、1898 年（明治 31 年）に丸三麦酒（カプトビール）の製造工場として建設されました。基礎設計はドイツのゲルマニア機械製作所で、実施設計は横浜赤レンガ倉庫や東京の日本橋と同じ建築家の妻木頼黄です。ビール工場として建てられたものの、第二次世界大戦中、1944 年に中島飛行機半田製作所の倉庫として接収され、戦後は 1948 年から日本食品化工のコーンスターチ製造工場として使用されていました。1994 年、同工場が操業を停止した後、半田市に買収され、改修工事や耐震補強工事を経た後、半田市を代表する観光施設の一つとして現代の姿になりました。

建物の入り口前には、明治期に名古屋駅前に存在し、スタジオジブリ作の映画「風立ちぬ」にも登場したカプトビールの大看板を再現した原寸大広告塔があります。



カプトビール大看板 原寸大広告塔

ガイドの方に案内して頂きながら、建物の内外を見学すると、随所にビール作りのための工夫が凝らされていることがわかりました。工場閉鎖時に取り壊されてしまった部分を差し引いても、日本に現存する建築物の中で五指に入るほどの量のレンガが使われているそうです。ビール工場として安定した温度や湿度の管理を必要としたことから、分厚い壁は中空構造となっており、外壁には太平洋戦争中に空襲で受けた機銃掃射の傷痕が、いまだ風化することなく残っています。



外壁に残る戦争の爪痕

見学の最後に、明治期および大正期当時の味を再現したカプトビールを試飲することができました。

半田赤レンガ建物を後にして、落ち着いた町並みを堪能しながら中埜酒造株式会社の「酒の文化館」へと移動しました。

知多半島は江戸時代初期から、酒をはじめとした酢や味噌、醤油などの醸造業が盛んな地域でした。当地では、1682 年の時点で 75 戸の酒造家があったとされています。そんな中で、中埜酒造は 1844 年に創業されました。

酒の文化館は、1972 年まで実際に使われていた酒蔵をそのまま活用した博物館です。内部には、当時の日本酒造り工程の紹介や酒造りの道具、大人の背丈よりも大きな酒樽といった数多くの品々が展示されていました。



中埜酒造(株) 酒の文化館

酒造を代表する銘柄「國盛」の名前には、「国の繁栄を願い、それとともに我が酒の盛んなること」という願いが込められています。また、こちらでも看板商品である日本酒の試飲をさせて頂くことができました。

施設見学会を滞りなく終え、中埜酒造から程近くにある懇親会場の「魚太郎 半田店」に移動しました。既に程よくお酒が入り、緊張がほぐれて会話も盛んになってきた頃合いの懇親会は、大いに盛り上がるものでした。新鮮な魚介に舌鼓を打ちながら、老若男女を問わず積極的な交流が見られました。

企画・広報委員会では、協会の発展と活性化を目指し、ご参加頂いた皆様の見分を広め、懇親を深める機会として、今後も施設見学会を企画・開催していきたいと考えています。

- ・日本酒にまつわる話や日本酒製造の道具等の内容を知ることができ、どれも非常に興味深くとても勉強になりました。
- ・半田における醸造の歴史を学ぶことができた。



ご参加の皆様

③ 懇親会(回答数 18名)

大変良かった	13名
まずまず良かった	5名
普通だった	0名

- ・他社の皆様と交流する機会は少ないため、今回の見学会でじっくりとお話できたことで非常に有意義な時間となりました。
- ・普段あまり関わりのない同業他社の方々とお酒を交えて会話をする大変貴重な機会となり、今後の仕事に向けても良い刺激を受けることが出来ました。

愛環協 施設見学会アンケート結果報告

株式会社テクノ中部 加藤 直孝

今年度の施設見学会は半田市の「半田赤レンガ建物」及び「中埜酒造株式会社 国盛 酒の文化館」にて実施されました。会員12社から25名の参加を頂き有意義な研修となりました。この時頂いたアンケート(回答者19名)から結果を紹介致します。

アンケートは、見学を実施した①半田赤レンガ建物②酒の文化館③懇親会について5段階で評価を頂いたものと、全体を通した感想ご意見、今後の見学会への要望を自由記述にて記入頂いたものです。それぞれ評価と共に感想やご意見をピックアップして紹介致します。

1. 各施設、催しについての評価、ご意見

① 半田赤レンガ建物(回答数 19名)

大変良かった	13名
まずまず良かった	6名
普通だった	0名

- ・明治時代の建物だが低温醸造するための技術が考え抜かれた中空構造の堅牢な建物であり、当時の起業家の熱意を感じることができた。
- ・建物に残された戦争の傷跡から戦争の悲惨さを改めて感じた。

② 中埜酒造株式会社 国盛 酒の文化館 (回答数 18名)

大変良かった	10名
まずまず良かった	6名
普通だった	2名

2. 全体を通したご感想、ご意見

- ・若手職員が会社の垣根なく交流することができており、大変有意義な見学会になったと感じました。また、ベテラン職員と若手職員との交流もできていた。
- ・他社の若手社員と話す機会がないため、今回の見学会で多くの方々と交流ができたので大変貴重な経験になりました。

3. 今後の見学先の要望

下水道科学館、ミツカンミュージアム、碧南火力発電所、あいち航空ミュージアム、トヨタ産業技術記念館、ノリタケの森、知の拠点あいち等々多くの要望が寄せられました。

4. 総評

コロナ中は実施できていなかった施設見学会ですが、久しぶりの実施となりました。全体を通して、概ね好評を頂き愛環協として意義のある施設見学会を実施することができたと感じます。特に「普段なかなか会うことのない同業者との垣根を越えた交流」が自然になされており、皆さん旧友のように和気あいあいと楽しい時間を過ごすことができました。

頂いたご意見、要望は今後の企画で参考とさせて頂きます。参加者、関係者の皆様大変ありがとうございました。



\*\*\*\*\*

# 令和 5 年度環境計量士等研修会受講報告

2023. 11. 17 開催

一般財団法人中部微生物研究所

高島 里香

\*\*\*\*\*

令和 5 年 1 月 1 7 日に開催された令和 5 年度環境計量士等研修会をオンラインで受講しましたので、報告いたします。

1 題目は愛知県環境局環境政策部水大気環境課課長補佐飯田様より「解体等工事の石綿飛散防止対策に係る大気汚染防止法の規制について」の演題で石綿のこれまでの規制や令和 2 年度において大気汚染防止法の改正の経緯等についてご説明いただきました。弊社では石綿の分析をしていないのでイメージが難しかったのですが、作業基準の遵守の徹底、届け出や記録の保持を行うことが作業者の安全を守るということに繋がるのだと認識することができました。

2 題目は産業技術総合研究所ナノ材料研究部門ナノ粒子機能設計グループの南様より「有害な廃棄物を資源に変える新しい窒素循環システムに挑む」の演題でアンモニアを回収する技術についてご説明いただきました。アンモニアを作る際や分解の際にも多くのエネルギーが使われていることを知り、資源化することの重要性を感じました。

3 題目は株式会社環境科学研究所品質保証部技術支援室室長牧原様から「J I S K 0 1 0 2 の規格体系の見直しについて-第 2 部及び第 3 部-」の演題で見直しながされている規格について主な変更点についてご説明いただきました。変更に伴い S O P 等を改正しなければなりません、環境や人体への影響への配慮がされ、見やすくなるということで弊社でも見直しを行いたいと考えています。

4 題目はビーエルテック株式会社東京 R & D センター熊澤様から「これまでの流れ分析の J I S 化と告示収録の経緯～流れ分析を計量証明事業で使用するためのアドバイス～」と「有害物質(カドミウム)を使用しない連続流れ分析法による硝酸及び全窒素分析手法の開発」の演題で流れ分析をする際の J I S での注意点についてご説明いただきました。また、カドミウムを使用しない硝酸及び亜硝酸の分析の開発ではまさか亜鉛を用いてコイルまで自作されているとは思わず、何度も実験が行われ確立までされているのは、本当に大変なことだったと思われまし、規格化の実現を願っております。

5 題目はビーエルテック株式会社大阪本社営業部原様から「流れ分析装置 C F A と I C P - M S とのコラボ～希釈酸添加加熱分解前処理装置 A A T M と自動ろ過装置のご紹介～」の演題で人の手はバイアルに移すこととデータの確認及び機器の管理をすることのみという人手不足の昨今労働環境や安全及び試料をコンタミから守るには必要な機械だと感じました。

より安全に環境や資源を有限だと考えながら業務をしていきたいと思ひます。

## 事務局からのお知らせ

**【大気・臭気WG勉強会】**  
令和 6 年 1 月 2 6 日 (金)  
日本特殊陶業市民会館 (予定)

**【S O P (標準作業手順書) 研修会】**  
令和 6 年 1 月 3 0 日 (火)  
日本特殊陶業市民会館 (予定)

※今後の状況によっては、開催方法を変更する場合がありますので、詳細は愛環協 H P をご確認ください。

## 編集後記

「あいかんきょう」158 号をお手に取っていただき誠にありがとうございます。昨年は秋の陽気が長くなかなか冬が来ず季節が感じにくい年だったのでは。

今回初めて編集を担いました。この「あいかんきょう」は皆々様のご寄稿により構成されています。

ご寄稿される、体験や専門知識は、この「あいかんきょう」を充実させ、読者の皆様に有益な情報をお届けできることに繋がっています。業界の多様な視点や情報を集約し、誠意を持って読者の皆さまへお届けできることを光榮に思ひます。引き続き、ご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

野田



発行人 (一社)愛知県環境測定分析協会  
会長 大野 哲

〒460-0022  
名古屋市中区金山1-2-4  
アイディエリア405号  
TEL: 052-321-3803  
FAX: 052-684-4238  
E-mail: aikankyo@nifty.com

編集 (一社)愛知県環境測定分析協会 企画・広報委員会

委員長: 角 信彦  
副委員長: 石井 良孝、大場 恵史  
委員: 山本 浩明、志治 豊吾、加藤 直孝  
中野 雅則、松本 貴郁、野田 麻美  
日野 栄一、小西 成実、佐藤 勇人